

表現リズム遊び・リズムダンス・現代的なリズムのダンスにおける 現状と課題

—学習指導要領に導入されてからの文献を対象に—

大西 祐司¹⁾ 三田 沙織²⁾ 岡出 美則³⁾

A Study on the Current State and Issues of Rhythm Play, Rhythmic Dance and Contemporary Rhythmic Dance: Literature Review from 1998 to 2014

Yuji OHNISHI Saori MITA Yoshinori OKADE

Abstract

The purpose of this study was to identify the current state and issues of rhythmic dance; rhythm play, rhythmic dance and contemporary rhythmic dance. To achieve this objective, we set the following two tasks:

- 1) identify the comprehensive outcomes of research of the practical studies of rhythmic dance,
- 2) show the characteristics of the content knowledge and teaching materials of rhythmic dance.

We collected and took counted literature that included general and specific academic papers and books based on rhythmic dance. we also categorized them by practical study, theoretical study, fundamental study and made summary tables. Then we revealed characteristics based on descriptive content.

The findings of this study were as follows:

- 1) There were a lot of studies from various positions but outcomes of studies were almost not verified.
- 2) There were three characteristics of the content knowledge and teaching materials of rhythmic dance: teachers instruct movements and choreographies, students arrange and create movements and choreographies from what they learned, then students do an improvisation.

In consideration of content knowledge, there were differences in how we capture the features of cultural heritage dance.

Key words : Rhythmic dance, content knowledge, movements and choreographies,
improvisation

キーワード：リズム系ダンス、指導内容、既存の動きと振り付け、自由な動き

1. 問題の所在

平成10, 11年改訂の体育科及び保健体育科学習指導要領（以下、体育科と略す）より、ダンス領域に「創作ダンス（小学校では表現）」、「フォークダンス」に加え、「リズムダンス（小学校）」、「現代的なリズムのダンス（中学校・高等学校）」が導入された（以下、これらを総称しリズム系ダンスとする）。導入前から既に学校現場で多くの実践がみられたこと、社会におけるリズム系ダンスに対する関心が高かったことが、導入の理由である（松本・村田, 2004）。その結果、ダンス教育への関心は拡大され（村田, 2008）、ダンス領域内の種目の採択状況をみても、他の種目に比べその実施率は高い（中村, 2009）。加えて、平成23年改訂の中学校学習指導要領より中学校第1学年及び第2学年のダンス領域が必修化されたことを踏まえれば、ダンス教育全体でみても社会的な関心は大きい。

しかしその一方で、リズム系ダンスの授業に関する課題が報告されている。例えば、教師の一斉指導による振り付けを教え込む指導（中村・浦井, 2005; 三木・川口, 2003）やメディアで見受けられる既存のステップを教師の指導なく学習者に模倣させる指導（中村, 2013）、そもそもリズム系ダンスの指導内容が錯綜しているという指摘である（中村, 2013）。では、リズム系ダンスの授業が抱える諸問題に対して研究者はどのような提案をしてきたのだろうか。

村田・松本（2004）は、文献の選定範囲を明記していないもののリズム系ダンスの先行研究をまとめ、実践報告については模索中であることを指摘している。相馬（2011）は、1999年から2009年の雑誌「体育科教育」の掲載には、表現・創作ダンスに比べ、フォークダンス及びリズムダンス・現代的なリズムのダンスの指導資料が相対的に少なく、中学校、高等学校の現代的なリズムのダンスに関わる授業実践の報告はみられなかったことを指摘し

ている。三木ら（2003）もリズム系ダンスに関する研究成果が乏しいことを指摘している。

以上を踏まえれば、リズム系ダンスの課題は多様に示されているものの、これまでのリズム系ダンスの研究成果をもとに検討されているわけではなく、とりわけ実践的研究についてはほとんど俎上に載せられていない。改めてリズム系ダンスの実践的研究の成果から現状と課題を包括的に確認する必要がある。

2. 目的

そこで本研究は、リズム系ダンス（表現リズム遊び、リズムダンス、現代的なリズムのダンス）の実践的研究の成果から現状と課題を明らかにすることを目的とする。目的達成のため下記2つの課題を設定した。

①リズム系ダンスの研究及びその成果を包括的に確認する。

②リズム系ダンスの指導内容及び教材の特徴を検討する。

3. 方法

散在するリズム系ダンスの研究成果を統合することが可能となる文献レビューを用いる。

3-1. 文献の収集方法

3-1-1. 対象とする文献の期間

平成10年改訂の学習指導要領からダンス領域に表現リズム、リズムダンス、現代的なリズムのダンスが加わったため、平成10（1998）年から2014年までとする。

3-1-2. 選定基準

論文^{注1)}、機関誌は学校体育及びダンス教育を取り扱うものを対象とし（表1）、タイトルに「リズム」の記載のあるものをキーワード検索し入手した。表1の文献に加え、学術情報ナビゲータCiNiiでも収集を行った。

検索した文献から小学校、中学校、並びに高等学校の体育授業を想定していること、ダンス領域であることを確認し、文献を精選した。体づくり運動の領域や行事での取り扱い

と区別するためである。

また書籍の場合、ダンス領域でまとめて収録されているため、タイトルに領域名である「表現運動」「ダンス」もしくは種目を表す「リズム」の記載があるものを検索し、その中からリズム系ダンスに該当する箇所を抜粋し入手した。

学会抄録は、研究内容を詳細に確認できないため対象から除外した。

3-1-3. 収集期間

2015年4月10日～2015年6月19日

表1. 対象とする文献

論文	機関誌
体育学研究	体育科教育
体育科教育学研究	学校体育
日本女子体育連盟紀要及び学術研究	体育の科学
日本スポーツ教育学研究	女子体育
比較舞踊研究	たのしい体育・スポーツ
舞踊學	体育授業研究

3-2. 分析方法

リズム系ダンスの論文、機関誌、書籍の文献数を集計する。

体育科教育の3つの研究分類、①授業研究(実践的研究)、②授業づくり研究(理論的研究)、③授業の基礎的研究(体育科教育の基礎や条件に関する研究)(高橋, 1987)をもとに、論文及び機関誌の実践的研究の文献数を確認し、現状を把握する。文献の収集には、リズム系ダンスの知見を幅広く取り入れるため教材や指導法の提案といった実践報告から体系立てられている研究までを含め実践的研究とした。

論文及び機関誌の実践的研究から、指導内容及び教材に関する要約表を作成し、それらの記述内容の特徴を検討する。本文中、収集された文献から引用する場合は、表2. リズム系ダンスの書籍一覧、表3. リズム系ダン

スの論文要約表、表4. リズム系ダンスの学術雑誌要約表の通し番号を示すIDを用いて表記した。また表中の該当箇所には下線を付記している。

4. 結果と考察

4-1. リズム系ダンスの包括的な研究成果

収集されたリズム系ダンスの論文、機関誌、並びに書籍の文献の詳細は表2, 3, 4の通りである。文献の総数及び実践的研究の文献数は表5の通りであった。表5からは先行研究で指摘されていたリズム系ダンスの研究、特に実践的研究があまりみられなかったという指摘に対し、文献数が72件みられたことは、リズム系ダンスの実践的研究が精力的に取り組まれていることが見受けられる。機関誌及び書籍による報告が数多くみられたことは、研究者のみならず現場教員や民間団体の尽力もみとれる。

一方、実践の成果にまで言及した文献は表5の通り多いとはいええない。詳述すれば、クラス全体や抽出児の動きの分析やアンケート、観察から単元の位置づけや課題を明らかにしようとするもの(ID: 23, 24, 26, 32)、組織的観察法(ID: 64, 23)、並びに学習者に対する意識調査を単元前後に行う研究(ID: 26, 28, 31, 34, 64)は点在しているが、目標に対し授業の成果がどの程度得られたのかを明らかにしているものは確認できない。

もちろん文献として報告されるということは実践者もしくは報告者の見とりの範囲で授業の成果が十分上がっていることは推察されるが、客観的な指標を用いて成果が認められない点では信頼性に欠ける。体育科の説明責任ないし結果責任が厳しく問われる昨今においては、実践的研究の成果、とりわけ設定した目標に対応した授業の成果の検証を見据えた研究デザインによる実践及び報告が期待される。

表5. リズム系ダンスの文献と実践的研究の成果

	文献	実践的研究の成果
論文	11	7
機関誌	39	2
書籍	22	—
小計	72	9

4-2. リズム系ダンスの実践的研究の特徴

指導内容及び教材^{注2)}には大きく3つの特徴がみられた。1つめは既存の動きや振り付けを取り上げるものである (ID: 23, 28, 29, 31, 34, 36, 38, 40, 41, 45, 49-54, 59-64, 67, 70)。例えば、ボックスステップやランニングマン、教師が予め準備している振り付け、エアロビクスのステップを用いて指導するケースである。2つめは、即興的で自由な動きや振り付けを取り上げるものである (ID: 23, 26, 29, 31, 32, 38, 40, 41, 44, 50, 52, 56-58, 60, 61, 64, 65, 69-71)。3つめは、既存の動きや振り付けを工夫したり創作したりするものである (ID: 31, 32, 34, 36, 38, 40, 44, 49, 53-55, 58, 59, 61, 64, 65, 67, 68, 70)。例えば、ケン・パーに空間や時間の要素を加え創作して踊るもの、教師が予め準備しておいた振り付けの中に学習者が自由に踊ってよい部分を設けているものである。

これら3つの立場の間には、意見の対立がみられる。既存の動きや振り付けを取り上げる立場は、創作ダンスに比べステップや技、型など、覚えることが明確なので教えやすく、学びやすいと指摘する一方で (萩, 2013; 菊地, 2013)、自由な動きや振り付けをよしとする立場は、ステップを習い覚えて踊ったり、そろえて踊る練習に時間をかけたりするのではないという (文部科学省, 2013)。

学習指導要領に立ち返れば、例えば中学校第1学年及び第2学年の技能は「リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること」と記述されている。したがって、3つの立場はこの指導内容の範疇に納まり、あくまで先の意見

の相違は指導内容及び教材の是非を問うものではなく、立場によって学習指導要領の解釈が異なるというところにとどまる。ただし、高等学校入学年次以降の技能で初めて「リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり」(傍点は筆者加筆)と「自由」に関する記載がみられることから、自由に踊ることは高等学校入学年次以降に求められる高度な技能であると推定される。この解釈を学習の順序性に加味すれば、高等学校入学年次までは「自由」に踊ることは難しいといえるだろう。

他方で、文部科学省から出版されている学習指導要領解説 (文部科学省, 2008) や指導の手引き (文部科学省, 2013) は、高等学校入学年次以前にも自由な動きや振り付けを推奨する傾向にある。このことは「自由」の考え方において、自由な動きができるようになるという技能を指すのか、それとも自由な動きを通して指導内容を習得させるという教材もしくは指導方法を指すのかといった交錯もみられる。同時に、これまで創作ダンスの指導に関して自由であるため指導が難しい (原田, 2002; 伊藤ら, 2000) という指摘がなされてきたことを鑑みれば、リズム系ダンスの指導においても、「自由」に踊らせることは現場では嫌厭され、既存の動きを扱う実践がみられるのではないだろうか。ではこのような特徴の違いは何に求めることができようか。

そのひとつに指導内容を検討する際は、素材としての運動文化財に目を向ける必要がある。冒頭で述べた通り、リズム系ダンスがダンス領域の一種目として導入された背景としてリズム系ダンスに対する社会の関心の高さがあげられる。つまり、社会の関心が集まっているリズム系ダンスがその源流と考えられ、ヒップホップやメディアでよく目にするダンスというには異論の余地はないと思われる。しかし、このダンスのどの点に着目するかにより指導内容及び教材については違いが生じると考える。リズム系ダンスの運動文化財には次の3つの解釈が考えられる。

1つめは、ヒップホップやメディアでよく目にするダンスを予め創作された振り付けと捉え、ダンサーがそれを再現していると解釈する立場。この考えに依拠すればリズム系ダンスは音楽に合わせて既存の動きや振り付けを模倣して踊ることが指導内容と捉えられる。

2つめは、ボックスステップやランニングマンといった既存のステップや動きを習得し、それらを組み合わせて踊っていると解釈する立場。この考えに依拠すれば、学習者は一定の動きの習得を先の学習とし、後にそれらにアレンジを加えたり、組み合わせたりして創作する学習へと発展することになる。もしくは、既存の動きをもとに音楽に合わせて動きを自由に選択したり、並べ替えたり、組み合わせたりして即興的に踊ることも可能になる。

3つめは、ヒップホップのルーツをアフリカの黒人ダンスにまで遡り、ドラムのビートに合わせた即興的な踊り(七類, 2010)やヒップホップのバトルという形式による即興的な踊りと解釈する立場。この考えに依拠すれば、学習者がこれまでの生活や学習の中で体得している動きのレパートリーを手がかりに、動きをほとんど指導することなく、音楽にのって自由に踊ることが期待される。

いずれにしても学習指導要領内の指導内容の範疇である限り、現時点ではこれらの解釈に正否はつけられない。細川(2014)が指摘するように「(現代的なリズムのダンスの)指導法を検討するにあたっては、やはりヒップホップダンス等リズム系のダンスについてその歴史や文化、踊りの意味を我々はおっと学んでいかなければならない(括弧内は筆者加筆)」し、授業の質保証に向けてはまずはリズム系ダンスの学習成果に関するエビデンスを蓄積した上で議論が進める必要がある。ただし、どの解釈においても音楽の拍やリズムに合わせて動きを行うことが求められる。リズムにのることには段階があるとの指摘を踏まえれば(宮本, 2011)、教師はどのような動き

を指導するだけでなく、その動きをどのようにリズムにのせることができるのかについても指導する必要があるだろう。

5. 結論

以上を踏まえ、本研究では次のことが明らかとなった。

リズム系ダンスに関する実践的研究はさまざまな立場から数多くの提案がみられる一方で、その成果はあまり検証されていなかった。指導内容及び教材には3つの特徴がみられた。1) 既存の動きや振り付け、2) 既存から工夫や創作、3) 自由な動き、を扱うものである。ここでは指導内容を検討する際、運動文化財を何に求めるかにより相違がみられた。

6. 今後の検討課題

本研究ではリズム系ダンスの文献を包括的に確認し、指導内容及び教材の内実から現状と課題についてまとめることができた。

文献を確認する過程では、リズム系ダンスが一単元を構成するのではなく、創作ダンスの部分的な「教材」として用いられ、一授業の導入として扱われたりする実践がみられた(ID: 22^{注3)}, 56)。同様に、創作ダンスの実践的研究からも報告はみられる(小林ら, 2013; 佐藤, 2012; 浮田ら, 2013; 山岡・小田部, 2000)。このことは、三木ら(2003)がリズム系ダンスを「ダンスの授業の単元の中で『創作ダンス』と関連づけて活動できる拡張性を持っており、ダンス授業における学習内容として有用性の高いものである」と指摘するように、リズム系ダンスの位置づけをダンス領域の他の種目との関係の中でみていく必要性を示唆している。なぜなら、リズム系ダンスは現場で既に実践がみられたことが導入の一因にあげられるが、種目として確立された後も学習者の興味関心を引くための創作ダンスの導入教材や単元を部分的に構成することに終止するのであれば、わざわざ種目として確

立された意味が見いだせないためである。

ダンス教育の間口を広げる役目を終えたりリズム系ダンスが種目として確立された意義を改めて検討する必要がある。今後の課題としたい。

注

注1) 論文を選定する際のカテゴリ基準として、日本学術会議HP (http://www.scj.go.jp/ja/info/link/link_touroku_ha.html) より、日本学術会議協力学術研究団体であることを確認し収集した。

注2) 本来、指導内容(学習内容)と教材は、学習者に習得させたい内容(教師が指導すべき内容)とその習得のための手段や教授、直接的な学習活動となるものとして、明確に区別されるべきものである(岩田, 1994)。しかし、本論では対象とした文献において明確に分けて表記されていなかったことから合わせて表記している。また本論では、教材の概念を教材の構成や学習過程の展開、発問や教具、学習形態までも含む広義の意味で用いている。

注3) 具体的には佐藤(2003, pp. 82-85)、牛山(2003, pp. 86-89)である。

文献

細川江利子(2014)日本の舞踊教育・ダンス②中学校・高等学校におけるダンス教育～この25年の歩み～. 女子体育. 56(8・9):82-87.

萩裕美子(2013)中学校ヒップホップダンス指導の教科書. 実業之日本社: 東京.

原田奈名子(2002)ダンスの授業づくり. 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編, 体育科教育学入門. 大修館書店: 東京, 220.

平井アカネ(監修)(2012)動く見つける創るー中学校・高等学校のダンス教育. 碓井節子・内山明子・殿谷成子編. 晩成書房: 東京.

伊藤美智子・岡沢祥訓・林信恵・北島順子(2000)ダンス授業における教師行動に関する研究: ダンス授業と他の体育授業との比較. 大阪体育大学紀要, 31: 9-17.

岩田靖(1994)教材づくりの意義と方法. 体育の授業を創る. 高橋健夫編. 大修館書店: 東京,

26-34.

菊地由見子(2012)オールカラー版DVD付き中学校ダンス指導のコツ. ナツメ社: 東京.

小林加奈・田中和紀・山本利美(2013)今がチャンス!先生も生徒も初めての即興表現. 女子体育(55)2・3: 28-33.

三木綾子・村田芳子(2002)ヒップホップのリズムのダンス(2)基本的な動きを身につけて踊ろう. 教育技術MOOK 最新楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス. 村田芳子編. 小学館: 東京, 36-37.

三木綾子・川口千代・頭川昭子・村田芳子(2003)「現代的なリズムのダンス」の特性とダンス授業における学習内容としての有用性. いばらき健康・スポーツ科学20: 21-33.

宮本香織(2011)ダンスにおける「リズムにのる」ことについての一考察. スポーツ運動学研究, 24: 65-73.

文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説 保健体育編. 東山書房: 京都, 6-9.

文部科学省(2013)学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引き. 東洋館出版社: 東京.

村田芳子(2002)ロックのリズムのダンス みんなで踊ろう「ワッハッハ・ダンス」. 教育技術MOOK 最新楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス. 村田芳子編. 小学館: 東京, 28-29.

村田芳子・松本昌代(2004)生涯学習に向けた「リズムダンス」・「現代的なリズムのダンス」の学習指導に関する縦断的研究. (社)日本女子体育連盟学術研究. 21: 21-44.

村田芳子(2008)表現運動・ダンスの授業で身につけさせたい学習内容とは?—学習内容と「習得・活用・探究」の学習をつなぐ—. 体育科教育56(3): 15-18.

中村恭子(2009)中学校体育の男女必修化に伴うダンス授業の変容—平成19年度, 20年度, 21年度, および24年度の年次推移から—. (社)日本女子体育連盟学術研究. 26: 1-16.

中村恭子(2013)中学校体育全領域必須化に伴うダンス授業の変容と課題: ダンス種目の学習内容・指導方法を中心に. 比較舞踊研究. 19: 1-12.

- 七澤朱音 (2013) 新・苦手な運動が好きになるスポーツのコツ①ダンス. ゆまに書房: 東京.
- 日本ストリートダンス協会 (2012) めざせ! ダンスマスター③リズムダンス. 岩崎書店: 東京.
- 大木秀一 (2013) 看護研究・看護実践の質を高める 文献レビューのきほん. 医歯薬出版: 東京.
- 坂本秀子 (2012) DVD付き初心者から指導者まで使えるダンスの教科書. 成美堂出版: 東京.
- 佐藤喜高 (2012) 心も体も拓くダンスの授業を目指して～男性の先生もできる創作ダンスの授業～. 女子体育 (54) 4・5: 22-27.
- 相馬秀美 (2011) 月刊誌「体育科教育」から探る今日の舞踊教育の現状. 舞踊学の現在. 遠藤保子・細川江利子・高野牧子・打越みゆき編. 文里閣: 京都, 263-276.
- 七類誠一郎 (2010) 黒人リズム感の秘密 改訂版. 郁朋社: 東京.
- 高橋健夫 (1987) 体育科教育法の現状と体育科教育学の課題. 成田十次郎編. 体育科教育学. ミネルヴィア書房: 東京, 57-63.
- 田巻以津香 (監修) (2014) はじめよう! ダンス. ベースボールマガジン社編集. ベースボールマガジン社: 東京.
- 浮田未来・石上智子・久山素子 (2013) イメージを共有し合い, 動きを広げ, 表現する喜びを感じよう. 女子体育 (55) 2・3: 16-27.
- 牛山真貴子 (1998) 現代的なリズムのダンスの技術とその指導. SPASS中学校体育・スポーツ教育実践講座. 11巻楽しく踊りを豊かにする表現するダンスの授業. 中学校体育・スポーツ教育実践講座刊行会編. ニチブン: 東京, 225-228.
- 山岡裕子・小田部裕子 (2000) 心とからだのほぐしから広げ深めるダンス学習. 学校体育 (12) 20-23.
- 淀川一哉 (2010) 「学び合い・高め合い・喜び合える」ダンス授業を目指して. 女子体育 (52) 1: 20-25.

表2. リズム系ダンスの書籍一覧

ID	著者	年	タイトル	ページ数
1	文部科学省	2013	学校体育実技指導資料 第9集 表現運動系及びダンス指導手引き	—
2	文部科学省	2011	新学習指導要領に基づく中学校保健体育科における「ダンス」リーフレット	11-14
3	七澤朱音	2013	新・苦手な運動が好きになるスポーツのコツ①ダンス	24-33
4	秋裕美子	2013	中学校ヒップホップダンス指導の教科書	—
5	村田芳子・田巻以津香	2012	教育技術MOOK よくわかるDVDシリーズ 新学習指導要領対応 表現運動—リズムダンスの最新指導法	—
6	菊地由見子	2012	オールカラー版 DVD付き 中学校ダンス指導のコツ	52-83
7	村田芳子	2002	教育技術MOOK 最新楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス	—
8	全国ダンス・表現運動授業研究会	2011	明日からトライ! ダンスの授業	6-9,40,46,89-106
9	中学校体育・スポーツ教育実践講座刊行会	1998	SPASS中学校体育・スポーツ教育実践講座 第11巻 楽しく踊りを豊かに表現するダンスの授業	75-89, 225-228
10	日本ストリートダンス協会 (JSDA)	2012	めざせ! ダンスマスター③リズムダンス	—
11	坂本秀子	2012	DVD付き 初心者から指導者まで使えるダンスの教科書	16,17,19-54
12	藤崎敬・三坂岑世	2000	新学習指導要領実践 小学校体育2 図解・実践 用具を操作する運動遊び、水遊び、表現リズム遊び (1・2年)	98-141
13	藤崎敬・森脇洋二	2000	新学習指導要領実践 小学校体育5 図解・実践 用具を操作する運動、浮く・泳ぐ運動、水泳、表現運動 (3・4年)	134-145
14	藤崎敬・米山筋男	2000	新学習指導要領実践 小学校体育9 図解・実践 水泳、表現運動 (5・6年)	124-131
15	平井タカネ	2012	動く見つける劇—中学校・高等学校のダンス教育	—
16	根本正雄	2000	〈楽しい体育の授業〉別冊 心と体を育てる体育授業上達セミナー (9) 表現運動の習熟過程	17-37
17	松本富子・長谷川聖修	1999	小学校・子どもと楽しむ体育授業5 これは簡単! 表現運動・体づくり運動 動きつく	8-19, 45-51, 77-102
18	細江文利・鈴木直樹・成家篤史・細川江利子・山崎大志	2014	動きの「感じ」と「気づき」を大切にしたい表現運動の授業づくり	—
19	細江文利	2006	教育技術MOOK 心と身体をつむぐ体育 水泳・表現運動 小学校1~6年	74-89, 98-105, 130-137
20	田巻以津香監修、ベースボール・マガジン社編集	2014	はじめよう! ダンス	53-93
21	全国ダンス・表現運動授業研究会	2015	みんなでトライ! 表現運動の授業 DVD付き	49-59
22	木村清人・戸田芳雄監修、松本富子編集	2003	新しい課題に対応する中学校保健体育科の授業モデル3「現代的なリズムのダンス」編	—

表3. リズム系ダンスの論文要約表

ID	著者	年	タイトル	掲載機関	ページ数	分類	対象	記載なし	目録/内容	教材/方法	成果
23	西村依子・川口千代	2008	表現運動の学習指導に関する研究「表現」と「リズムダンス」の指導の在り方を中心に	京都女子大学 連教教育学部紀要	1: 105-117	実践的研究	小学校2年生		表現A ①リズムダンス「In the Navy」を踊る。②もう一度「In the Navy」を踊る。その際、スキップの部分も自由に動きで移動する。③遊樂池の乗り物について話し合う。④遊樂池の乗り物に、原音の表現の特徴を捉え、「リズムダンス」の作り取りのイメージを表現すること。 研究方法 ABの授業を1時間単位の授業で計画。準備した、2名の子どもがカメラを用いて台本形式を撮る。もう1人は録音機を撮影しながら、自己採録。形成的採録画面。期間記録法を用いてデータを収集した。 ABの子どもたちの授業でも出現した問題の授業中に制作した動きに発展性があつたことから、「リズムダンス」を授業の導入段階で行うことも「表現」の授業の中で、児童の個性を伸ばしていくことが明らかとなった。	研究目的 「リズムダンス」指導の問題を収録ビデオより明らかにし、今後の課題を検討すること 研究方法 「表現」と「リズムダンス」それぞれの授業を単行の一時間単位で、クラス全体の子どもを観、児童のビデオ観察。ビデオプリンターによる動きの比較を行った。 まとめ 「リズムダンス」指導では多様な動きの引き出し方と授業展開の困難さが問題としてあげられた。	
24	土井涼子・川口千代	2007	「表現運動」領域における動きの認知は教師研究 - 「表現」と「リズムダンス」を事例に	京都女子大学 連教教育学部紀要	3: 65-75	実践的研究	小学校2年生 小学校3年生		表現リズム遊び 表現リズム遊び：児童になりきって、友だちと一緒に楽しく踊る。いろいろな表現リズム遊びの仕方を知り、活動工夫や学習法とができる(学び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。 研究方法 ①遊樂池の乗り物について話し合う。②遊樂池の乗り物について話し合う。③生活法(4人)に合わせ、グループで遊ぶものを決め、④グループで遊びを練習する。⑤お話を聞く。⑥お話を聞く。⑦発表する。	研究目的 「リズムダンス」指導では多様な動きの引き出し方と授業展開の困難さが問題としてあげられた。	
25	津野愛美・熊谷智代	2011	中学校ダンス必修化に対応した「現代的なリズムのダンス」の教材開発	岐阜大学教育学部 研究発表誌	13: 55-67	理論的研究			表現リズム遊び 表現リズム遊び：児童になりきって、友だちと一緒に楽しく踊る。いろいろな表現リズム遊びの仕方を知り、活動工夫や学習法とができる(学び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。 研究方法 ①遊樂池の乗り物について話し合う。②遊樂池の乗り物について話し合う。③生活法(4人)に合わせ、グループで遊ぶものを決め、④グループで遊びを練習する。⑤お話を聞く。⑥お話を聞く。⑦発表する。	研究目的 「リズムダンス」指導では多様な動きの引き出し方と授業展開の困難さが問題としてあげられた。	
26	古川順成	2011	「表現運動」領域における動きの認知は教師研究 - 「表現」と「リズムダンス」を事例に	上越教育大学 教育実践研究	21: 179-184	実践的研究	小学校4年生		表現リズム遊び 表現リズム遊び：児童になりきって、友だちと一緒に楽しく踊る。いろいろな表現リズム遊びの仕方を知り、活動工夫や学習法とができる(学び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。 研究方法 ①遊樂池の乗り物について話し合う。②遊樂池の乗り物について話し合う。③生活法(4人)に合わせ、グループで遊ぶものを決め、④グループで遊びを練習する。⑤お話を聞く。⑥お話を聞く。⑦発表する。	研究目的 「リズムダンス」指導では多様な動きの引き出し方と授業展開の困難さが問題としてあげられた。	
27	宮本香織・高田治	2012	「現代的なリズムのダンス」における指導内容についての実生運動学的一考察	鹿児島大学教育学部 研究発表	22: 19-27	理論的研究			表現リズム遊び 表現リズム遊び：児童になりきって、友だちと一緒に楽しく踊る。いろいろな表現リズム遊びの仕方を知り、活動工夫や学習法とができる(学び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。 研究方法 ①遊樂池の乗り物について話し合う。②遊樂池の乗り物について話し合う。③生活法(4人)に合わせ、グループで遊ぶものを決め、④グループで遊びを練習する。⑤お話を聞く。⑥お話を聞く。⑦発表する。	研究目的 「リズムダンス」指導では多様な動きの引き出し方と授業展開の困難さが問題としてあげられた。	
28	内山須美子・松原健太・奥山美希	2013	ダンス学習の動機づけに関するチキニョダンスの「現代的なリズムのダンス」の授業を事例として	白根大学教育学部 部誌	7(1): 71-108	実践的研究	中学校1年生		表現リズム遊び 表現リズム遊び：児童になりきって、友だちと一緒に楽しく踊る。いろいろな表現リズム遊びの仕方を知り、活動工夫や学習法とができる(学び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。順番や決まりを守って、安全に遊ぶことができる(遊び方)。 研究方法 ①遊樂池の乗り物について話し合う。②遊樂池の乗り物について話し合う。③生活法(4人)に合わせ、グループで遊ぶものを決め、④グループで遊びを練習する。⑤お話を聞く。⑥お話を聞く。⑦発表する。	研究目的 「リズムダンス」指導では多様な動きの引き出し方と授業展開の困難さが問題としてあげられた。	

29	春成浩	2013	41: 128-134	藤井大学研究紀要 (第17号)	3年間の学びの振り返りを持って、音楽学習をスタートする。リズムの特性を伝え、集団の動きとの調和を探る。「現代的なリズムのダンス」(第1号)	リズムダンスをデザインする。簡単な繰り返しのリズムで踊ったり、変化のある動きを組み合わせて行ったりする。	単元12時間、1時間目はポップやロックで踊られている曲の映像を観て、2時間目はヒップホップのリズムの特性を伝え、3～6時間目は基本のステップ(ツイストステップ、クロスステップ、ボックスステップ)を練習しながら、グループの踊りの前半部分を完成する。7時間目はグループ練習と中間発表、8～11時間目はグループの後半の踊りを制作する。12時間目に発表会を行う。	記載なし	記載なし
30	藤本里子・成瀬久美	2014	16: 31-39	奈良女子大学スポーツ科学研究	「東洋リズム遊び」にみられる相互交流の要素 - 小学生1,2年生	「東洋リズム遊び」にみられる相互交流の要素 - 小学生1,2年生	小学校低学年の子どもがダンス授業で学んだ題材に対し、どのように自分の体を使ってイメージしようとするか、また個々の表現がどのように他者に受け入れられているか明らかにする。	研究目的 小学校低学年の子どもがダンス授業で学んだ題材に対し、どのように自分の体を使ってイメージしようとするか、また個々の表現がどのように他者に受け入れられているか明らかにする。	研究目的 小学校低学年の子どもがダンス授業で学んだ題材に対し、どのように自分の体を使ってイメージしようとするか、また個々の表現がどのように他者に受け入れられているか明らかにする。
31	成瀬麻美	2014	38: 19-26	愛知教育大学保健体育学部研究紀要	愛知教育大学保健体育学部研究紀要 - 小学生5年生	「踊る・創る・見る」を取り入れたリズムダンスの授業 - FJ小学校を事例に	単元7時間、12時間目は即興ダンスでロックを扱い、教師のまねをしたり、2人組の相手の動きをまねたりする。カンパでは音楽に合わせて基本の動きを行う。3,4時間目は即興ダンス(ロック)を行い、グループで人まねまじりの動きを創作した。5,6時間目は即興ダンス(ロック)とサンタの音楽に合わせて踊り、グループでひとまねまじりの動きを創作した。7時間目は交流を促すこと。	記載なし	研究目的 単元8時間、1～4時間目までは導入でほくほくを行い、曲のリズムに合わせて自分自身を自由に表現して楽しむ。5～8時間目は曲の特性を伝え、動きを工夫し、リズムに合わせて踊ることを中心にリズムの特性を伝え、リズムに合わせて踊ることを中心にリズムの特性を伝え、リズムに合わせて踊ることを中心にリズムの特性を伝えること。
32	村田美子・松本昌代	2004	21: 21-44	日本女子体育大学保健体育学部研究紀要	日本女子体育大学保健体育学部研究紀要 - 小学生5年生	生連学習に向けた「リズムダンス」・「現代的なリズムのダンス」の学習指導に関する断片的考察	単元10時間、1時間目はほくほく二人組で行う。2～5時間目は今までのリズムのとり方や動きで、リズムに合わせて踊る。6～9時間目は曲の特性を伝え、動きを工夫し、リズムに合わせて踊ることを中心にリズムの特性を伝えること。	研究目的 ①リズムダンス、現代的なリズムのダンスの指導計画案の作成と実施、②学習後における学習者の学習に関する断片的指導指導の提示。	研究目的 ①リズムダンス、現代的なリズムのダンスの指導計画案の作成と実施、②学習後における学習者の学習に関する断片的指導指導の提示。
33	川口千代・原川昭子・村田芳子	2003	20: 21-33	いばらき健康スポーツ科学	「現代的なリズムのダンス」の特性とダンス授業における学習内容としての有用性	「現代的なリズムのダンス」の特性とダンス授業における学習内容としての有用性	単元10時間、1時間目はほくほく二人組で行う。2～5時間目は今までのリズムのとり方や動きで、リズムに合わせて踊る。6～9時間目は曲の特性を伝え、動きを工夫し、リズムに合わせて踊ることを中心にリズムの特性を伝えること。	研究目的 ①リズムダンス、現代的なリズムのダンスの指導計画案の作成と実施、②学習後における学習者の学習に関する断片的指導指導の提示。	研究目的 ①リズムダンス、現代的なリズムのダンスの指導計画案の作成と実施、②学習後における学習者の学習に関する断片的指導指導の提示。

64	小林治雄	2008	40:40- 43	実践的研究 体育科教育	リズムと表現を楽しむ「ヒップホップ」の授業	単元目標 「開心・意欲・態度」を育み、リズムの楽しさを共有する。 実践的授業を行い、ほとんどの項目、前問で28以上の値を示している。単元前後のダンスの意識調査で、単元後のダンスが楽しいと感じている。28人全員が好まると答えている。
65	津田浩幸	2005	10:22- 26	実践的研究 体育科教育	リズムダンスの授業をすすめる先生への指導	ダンスの授業は、仲間とともに動く。記録なし
66	井上正司	2000	7:26-27	実践的研究 体育科教育	リズムダンスの授業に携わり、私にもできたダンスの指導	ダンスの授業は、仲間とともに動く。記録なし
67	津田幸保	2013	6:46-47	実践的研究 体育科教育	リズムジャンプを使ったダンス指導	基本のステップ、ダンスステップ(ジャンプステップをアレンジ)、一授業につき4種類程度、記録なし
68	水川浩司	2014	3:58-61	実践的研究 体育科教育	リズムダンスの授業に携わり、私にもできたダンスの指導	基本のステップ、ダンスステップ(ジャンプステップをアレンジ)、一授業につき4種類程度、記録なし
69	池澤暹弘	2001	8:14-15	実践的研究 小学校5年生	地域の子どもにもダンスの授業	基本のステップ、ダンスステップ(ジャンプステップをアレンジ)、一授業につき4種類程度、記録なし
70	大田一板	2000	12:16- 19	実践的研究 小学校5年生	いろいろな音楽のリズムに合わせて自由に見よう 一音楽に合わせて、リズムをとりながら踊る。 いろいろな音楽のリズムに合わせて自由に見よう 一音楽に合わせて、リズムをとりながら踊る。	リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続け、リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。 リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。 リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。
71	子・井上 正司	2000	12:12- 15	実践的研究 小学校6年生	リズムダンスの学習	リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。 リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。 リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。
72	室田典子	2000	12:8-11	実践的研究 小学校2年生	一人ひとりが楽しめるリズムダンスの授業	リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。 リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。 リズムに合わせてダンスの動きを覚え、自分や友達の体を意識しながら動き続けること。

ウォーミングアップでは、音楽なしでのダンスのリズムとり(前問)、音楽ありでのダンスのリズムとり(立位)、ダンスのリズムに合わせて歩く、ダンスのリズムでサイドステップ、ダンスのリズムでダンスステップなどを行っている。リズムダンスの授業は、仲間とともに動く。記録なし

単元時間、1時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。2時間目は2人組で踊る。3時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。4時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。5時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。6時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。7時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。8時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。9時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。10時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。11時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。12時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。13時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。14時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。15時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。16時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。17時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。18時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。19時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。20時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。21時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。22時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。23時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。24時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。25時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。26時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。27時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。28時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。29時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。30時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。31時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。32時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。33時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。34時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。35時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。36時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。37時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。38時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。39時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。40時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。41時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。42時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。43時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。44時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。45時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。46時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。47時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。48時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。49時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。50時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。51時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。52時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。53時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。54時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。55時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。56時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。57時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。58時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。59時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。60時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。61時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。62時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。63時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。64時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。65時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。66時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。67時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。68時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。69時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。70時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。71時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。72時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。73時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。74時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。75時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。76時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。77時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。78時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。79時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。80時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。81時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。82時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。83時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。84時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。85時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。86時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。87時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。88時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。89時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。90時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。91時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。92時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。93時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。94時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。95時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。96時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。97時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。98時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。99時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。100時間目はダンスのリズムを楽しく踊る。